

第1期登録アーティスト



奥州市
メゾ・ソプラノ
菊池葉子さん

北上市
ピアノ
阿部美礼さん

第2期登録アーティスト



北上市
パーカッション
小原史織さん

花巻市
フルート
牧野詩織さん

Q1 この事業に参加した理由を教えてください。

- ・独学ではなく、研修を受けられる、更には演奏の機会がある、子ども達に聴いてもらえる、ということが魅力的で参加しました。
- ・大学を卒業してから音楽とは離れた仕事をしていたが、心のどこかでは続けたい思いがあり、一度きりの人生、やりたいことをやろうと決心した。
- ・公共ホールや文化団体のバックアップを受けたり、オーディションに合格することが実績として認められれば今後の活動の助けになると感じたから。
- ・講師の先生やホールの皆さんの力を借りながら、やりたいことを形にできると思った。
- ・公共ホール主催の演奏会に出演できることが、演奏家としてのステップアップにつながると思った。

Q2 オーディションについてどう思われましたか。

- ・外部の審査員がいることが公平で良い。
- ・自分の演奏を評価してもらえる良い機会と捉えた。
- ・演奏に加えて、プレゼン能力を見てももらえるのが良いと思った。
- ・オーディションに合格することに価値を感じた。
- ・落選したときのマイナスも考えた。

Q3 実際のアウトリーチで大変だったことはありますか。

- ・プログラムづくりのために新しい知識を得たり、アイデアを広げたり、演奏だけではないこと。
- ・「こういう曲です」「ここに注目してみよう」と紹介してからの演奏は、ハードルが高くなります。ごまかしの効かない子ども達に納得してもらおう演奏もプレッシャーのあるものでした。
- ・学校では、季節によって室温や湿度が全く違うので、それに対応すること。

Q4 事業に参加することでご自身に変化がありましたら教えてください。

- ・研修を受けて、きちんと流れを組み立てることで聴き手により明確に伝わるプログラムができる事を知った。
- ・自分が何をテーマに演奏活動をしているのか、何を伝えたいのか明確になった。
- ・演奏会のプログラムや構成に悩み、一つ一つの意味を考えるようになった。聴いてくださる方の事を一番に考えるようになったと思う。分かりやすく伝える大切さも学んだ。

Q5 地域の演奏家だからできるアウトリーチは何だと思いますか。

- ・1回だけの出会いではなく、またどこかで会える機会があるかもしれない、という期待をもってもらえること。
- ・自分の学校や身近な場所で演奏をしたアーティストとまた別の場所で会えたり、存在を目にしたることで興味や関心に繋がればよいと思う。
- ・AKBじゃないけれど、いつでも会える演奏家というのは音楽を身近に感じたり、クラシック音楽への敷居を低くする要素の一つを担えるかもしれない。
- ・地域を知っているからこそ出せる音、言葉の選択。
- ・地域性を理解したり、細かな情報を得たりしやすいため、聴き手の反応などを具体的にイメージしてプログラムを組むことができると思う。
- ・「自分もこうなれるかも」「夢をかなえられるんだ」などと、アーティストの存在が具体的な道しるべとして感じられるかもしれない。

